

職業と教育

産業教育研究連盟

第三卷第九号

内 容 目 次

- 職業指導実践の指標……後藤 豊 治
産業教育研究大会の記
参加会員の感想と希望(二十氏)
教師の心構え……稲 田 茂
石けん製造の学習指導……杉 浦 弘 幸
- 連盟だより・編集だより・規約改正

9・10

政治的なあまりに 政治的な

民主党という一政党が「うれうべき教科書問題」と考え、それを論議することは自由である。それにしても、政治的な意図の下に、教科書にこと借りて、日教組を攻撃し、民衆からの離反をねらい、あわよくば官僚統制の国定教科書の一つの礎石にしようなどとの意図が見えすいていては、その方がよほど「うれうべき態度」といいたくなる。

かつては、教育二法案で教育の政治的中立を口にしたのは自由党であったが、今度は、民主党が進んでそれをふみにじって、教育への政治的干渉を行っている。いづれも教員の組織である日教組を、眼のカタキにしていることが明かで、神聖なるべき教育が、彼等によって破カイされ、歪曲されようとしているのである。それは、教育者全体に向っての挑戦であり、明かに反動攻勢である。

教科書制度の是非については、国民の立場に立って、冷静にしかも合理的に論議もされ

改むべきは改められるべきである。それはどこまでも、一切の混雑物を排したものでなくてはならない。

そうした真面目な態度でこそ、国民の共感を呼び、わが国教育の進展に寄与することになる。それを、国民が関心をよせているのをチャンスとして、敵は本能寺式に、政治的な干渉の具に供する時、国民は警戒しなくてはならず、その方が教育のためには「うれうべき」ことなのである。

政府与党のこうした反動攻勢は、決してこの問題だけではない。最近のオネスト・ジョンの持込み、基地拡張の問題、海外派兵のにおい、第三国の軍事訓練等々々。眼にあまる外国の干渉には、飼犬のように尻尾をふり、国民に対しては牙をむいて、合理性も発展性も省みない状態を、一体彼等の良心はどう見ているのであろうか。彼等は、意識的に無意識的に、それに追従し、国民を踏台にしているとしか解されない。

政治的権力者は、不正を正といい、自らうれうべき存在でありながら、他をうれうべきものとするのは、あえてこの場合だけでは

ない。国民の世論の分裂をはかり、正論をおさえ、国民のおとなしく追従することを望むのは、人情の常かも知れない。それを常に反省するのがよき民主政治家でありうる。

ことごとくに日教組を眼のカタキにし、隙あらば、これを弱体化そうとするが如きは、露骨なる教育支配の現われであり、日教組としては国民の中にしっかりと根を下し、この攻勢に立ちむかう外に途がない。それは、とりも直さず、民主教育（不完全とはいえ）を、その一線でくいとめることにもなるのである。この道理を十分に国民に理解してもらい、あの手この手で打よせる反動の波を乗切らねばならない。若し教師がその任務を忘れ、彼等の望む通り教師の団結と国民大衆との離反が成功するならば、「うれうべき」事実が、あえて教育だけではなく、われわれのすべての面におそいかかるであろう。

従って教育関係者の一人々々が、国民的な立場において考察し、教科書問題の本質と、政治的利用者の言動とを混同することなく、また対岸の火災視していることなく、あらゆる機会に、あらゆる方法で、はげましいい結果をくすさず、ねばり強い防波堤をきづこうではないか。われわれもまた、その良心的な側にあることは、いうまでもない。(T)

職業指導実践の指標

後 藤 豊 治

(まえがき) 教育活動のいずれの部にしろ苦悩は多い。なかでも職業指導はとくに苦悩の多い実践部面ではなかるうか。なぜなら、職業指導は現実の社会的経済的諸問題としか結び合ひ、対決しなければならぬ実践領域だからである。その集中的表現が、少年自衛隊を志望する生徒をいかに指導するか、という問題などのなかに見られる。これらは実践者が必ず当面する現実の問題である。今夏の産業教育研究会・西日本会場では、このような現実をとらえて職業指導実践の指標をうることもねらいにふくまれていたのであるが、十分検討の余ゆうがえられなかった。ここに一応見解を整理して提示し、会員諸氏の検討を乞い、実践指標を確立される手がかりとしたい。(本誌八月号参照)

× × ×

1 職業・家庭科と職業指導

いつまでもこのことが問題にされなければならぬのはなぜだろうか。それは職業・家庭科についてのこれまでの性格づけがわざわいしている。すなわち、職業教育、職業・家庭科、職業指導などが

はっきり区別されず、なかでも職業・家庭科を職業指導のためにあるとする考え方がのこっていて、実践的に整理されないでいることによる。(本誌七月号「混同されやすい類似概念」参照)しかし、この点は、産業教育中央審議会第一次・第二次建議を实践的に検討する段階にきているところでは、区別が明らかになってきているはずである。

しかし一部にはなお意識的に、職業・家庭科の中に職業指導をもちこもうとする動きがある。そのよりどころは、第一次建議の二の4(註)にあるように思われる。すなわち、技術学習に関連して習得さるべき「国民経済に関する知識・理解」(第二次建議案の教育内容例のC)を単なる「職業情報」にすりかえること、啓発的経験をすべて職業・家庭科の技術の学習に負わせることの二点である。なぜそのように、ことさらおしまげて解しようとしなければならぬいかは判らない。われわれは「……することによって、職業指導への基礎たらしめるものである。」をすなおに受けとり、職業・家庭科が、義務教育としての普通教育の教科であることを承認し、一般技術の基礎陶冶としての内容編成をすすめるなければならない。そうす

ればおのずから、この教科のそとにおかるべき職業指導の位置や活動内容も限定されてくるはずである。

(注)二、教科のたて方(4)カウンセリングとしての職業指導は、この教科外におき、その重要性にかんがみ別途考慮する。しかしこの教科は職業指導と密接な関係をもつもので、国民経済や国民生活の一般的な理解を養い、その基礎構造と社会的経済的な約束を理解することにより、また基本的な技術の習得を啓発的経験として役立てることによって、職業指導への基礎たらしめるものである。

2 職業指導の位置づけ

今日の職業指導実践が「就職あっせん」になりつつあることは周知の事実である。しかも、あっせんに至る過程がほとんど閑却されており、せいぜい求人の開拓、限られた求人口に対して生徒を配分し、末梢的な速成準備をするていどのものが多い。労働市場のせまい現状においては、あるいはやむをえないことかもしれない。しかし、これをもって職業指導の正しいあり方として肯定してしまうわけにはいかない。

職場順応の末梢的な職業準備教育や配分にかわって、あるいはこれらに先だって、まだなすべきことがありはしないか。この点について筆者は、これからの職業人として当面する問題を合理的に解決できるような資質の発展をたすけることであると考へた。したがって、職業指導では、生徒の職業認識をふかめ、職業観を是正し、職業社会における問題を鋭くとらえ対決しようするような資質の発展をた

すけることに重点をおくべきことを強調してきた。これに対して、それはわかるが、やや飛躍しすぎるのではないか。そうなると、職業指導即生活指導ということになってしまふし、さらに職業指導即教育ともなりかねない。なぜなら、そのような資質の発展こそ、学校教育がねらっているところのものだし、当然生活指導のねらうところでもある。そのように職業指導を拡充してしまつたら、焦点がはっきりせず、実践がからまわりすることにならないか、との批判をうけた。

たしかに、職業人としての基礎的資質の発展はカリキュラムのうち自然意図されているし、生活指導はまた生活上の諸問題の把握と認識、さらにそれへの対決のたまへの発展をはかることをねらっている。職業指導はそれらの成果をふまえて、より直接的なねらい、すなわち職業を選択し決定することをたすけることに重点をしぼる方がはっきりしてくる。これは承認できる。しかし、このばあい、あくまで、職業指導もその一環であるところの生活指導が、総体として豊かに展開されていることが前提条件になる。

要約すれば、職業人としての一般的、基礎的資質の発展をたすけることが職業指導であると規定することは不当拡張である。職業指導というものをいっそうわかりにくくする。職業指導は教科の学習に即し、他の部面の生活指導によって補われて、もっと具体的な目標と限定された指導内容を定めるべきである。すなわち、「カウンセリングとしての職業指導」(第一次建議、前述(注)参照)がそれであり、職業の選択と決定をカウンセリングによってたすけるのが職業指導である、と規定した方がよい。

3 職業指導の担当者

職業の選択と決定がカウンセリングというしかたでたすけられるとしてそれを担当する者はいったい誰であるべきだろうか。もちろん、運営の主任者であり、カウンセラーであるところの職業指導主事を中心になるべきであろう。

この職業指導主事の設置にあたって、副校長級の教師である方がよいという考えかたがかなりいきわたっているようであるが、これは主として、次の諸点への考りよから来ているようである。(1)主事という職名がほかにないため、職能より地位がまず問題にされたこと(2)対外接渉の利点が考えられたこと(3)全校的統制という点が考えられたこと。おそらくこのような点の考りよから、いわゆる大物級がすえられ、専門職能者がすわることが少い傾向を生じたと思われる。これは結局、実践が専門職能者を必要とする段階に来ていないことを示しているともいえる。しかし、単なる求人開拓や配置にとどまらず、職業の選択や決定をカウンセリングによってたすけていこうとする限り、専門職能者をすえるようにすべきだろう。(この点、大阪市における職業指導主事選定の基準と過程は示唆に尽んでいる。)

ところが、いまひとつ問題がのこる。カウンセラーの設置は、ホームルーム担当教師やその他の職能者が、職業指導における責任と任務を免れたとして、いままでより以上に職業指導への関心と関与がうすくなりはしないか、ということである。そうなったとしたら、たとえカウンセラーが設置されたとしても、学校全体の諸職能者の

参加がない限り効果をあげえない、職業指導にとって大きな組織・機能上の欠陥をかたちづくりはしないか。いちばん関係のふかいホームルーム担当者に例をとってみよう。生徒に関する個人的資料の収集と整理、ホームルームという集団場面とおとしての個人の指導、個々人についての日常の観察と問題の発見などは、職業指導にも欠けてはならないはたらきである。生徒の示す諸兆候を鋭敏に感知し、おくれずカウンセリングを行うことも必要であろう。たまたま専門的な助力を要するばあい、カウンセラーのもとへうつすていどまで、ホームルーム担当者が引きうけるべきものであろう。

要は、専門カウンセラーの設置は、決してホームルーム担当者、教科担当教師、その他の職能者の職業指導への責務をすっかり肩代りしてしまふことにはならない。職業指導を運営する組織の中で、専門カウンセラーを中心として、学校内のあらゆる職能者が、いかにその本来の職能をとおして協力すべきかの研究が重要なわけである。(この点については 本誌 第二巻第七号、拙著「生活指導」第一章の五などを参照されたい。)

4 進路相談の要点

これまで、本来の意味での「相談」が行われていたかどうかは疑わしい。

一般に相談とは、問題に当面して、解決への援助を必要としている生徒と相談員が、問題解決行動の方向・方途を検討し合い、問題解決の妥当な計画を發展させ、生徒が自らの責任と自覚においてその計画遂行をひきうけるようにたすけることであると思う。すると

進路相談は、生徒がこれまで発展させてきた進路計画をきき、それをもとにして、生徒と相談員が検討しあって、さらに妥当な計画へ進展させるようにたすけることである。このばあい、検討し合うことに重要な意味がある。あるいは生徒の職業観にゆがみがあることが見出され、それが検討の中心になるかもしれないし、あるいは生徒の希望とその父兄の意向との間にくいちがいがあるのを、どう調整するかを検討の重点がくるばあいもある。たとえ手がかかるにしても、このように生徒の計画があつて、それが検討の材料になり、問題点が生徒にはっきりし、それについて話し合うことがされなければならぬ。そうして、生徒がなっとくし、自らの責任において、勇気をもって、その解決に歩み出すようになることが期待される。

最善の進路というものは現実にはなかなかありえない。人はつねに次善の道のあるものをえらぶことになる。次善の道であれ、それがどのような道であり、どこに通じ、どのような起伏があるかというような点をより明かにしてやり、その途中での起伏をこえていく意欲を増大させる点にこそ相談の本領はあろう。いわば、このような検討の過程にこそ、各種の職業が要求するところの資質や条件と被相談者の資質や条件との照合・勘案が必要である。相談者としての専門的職能の必要さも、カウンセリングのすすめ方をのけては、ほとんどこのような照合・勘案の妥当さにかかっていると云つてよからう。

とにかく、現場認識をふかめてもやらないで、ただ現状に順応するようにばかりしむけ、配置していくのでなく、十分な認識をふかめてやり、自己の諸条件との照合・勘案を十分にさせた上で、現実にはえられる進路をなっとくさせ、その進路をすすむ責任と勇気をつ

けさせることが進路相談の要点である。

5 就職あっせんにおける学校と公共職安との関係

就職あっせんとは、できるだけ生徒がよく生き、生かされる具体的な場をもとめることへの援助である。完全雇傭が実現され、公的な機関としての公共職安が生徒への配慮を十分に払うならば、学校のこの面での活動は必要でなくなるはずである。

もともと就職あっせんというのは、指導の機能としては消極的な意味のものであるが、生徒の自己発展の構成的な展開のためには、あえて発動しなければならぬ機能である。この消極的な機能であるべき就職あっせんが職業指導のすべてであるようになっていゝのは、さきへのべたような条件がみたされていないところからくるものだけといつてよい。

ところが、完全雇傭の実現ということは政治的問題であり、指導ののぞましい展開を可能にする基盤ではあつても、指導の直接の問題ではない。そこで、学校はむしろ公共職安のあっせんのしごとの不ぐあいな点を調整するというはたらきを受持つべきではないか。学校の任務は、教育的立場から社会的機関としての公共職安をおして社会にむかつて発言することであらう。具体的には、公共職安の生徒への配慮や扱いのまずさがあれば、これを是正し、より教育的な配慮を要求し、促進し、かつそのことに協力するという点にある。

× × ×
「当面の展開」で実践的展開を示すはずであつたが、紙数の制限のため、見解の整理におわつてしまった。(筆者)

(国学院大学教授・本連盟常任委員)

産業教育研究大会の記

▽東日本会場の部

かねて予告の通り八月五・六

日、新潟県妙高中学校で開催された。参加者は百七十余名、今までにない盛会であつた。会場は妙高山の麓、妙高温泉場として冬はスキー場として有名である。会期中は暑さを忘れる涼風が吹き、緑の山々の風光は快い気分にした。会場・宿泊等地元の並々ならぬお骨折りによつて、実に行届いていた。

第一日は午前九時三十分開会、渡辺義文氏を議長に推し、竹田操氏司会の下に、新潟県中学校長会産業教育委員会案を中心に、林勇氏、野瀬吉栄氏、田中トマ氏の研究発表があり、午後質疑が行われた。ついで本連盟の提案による施設設備について清原氏の説明があり、質問討

議がなされた。夜は、宿泊者約百名の会合で、地方状況の報告や懇談が行われた。

第二日は午前九時開会し、緊急動議によって要望書が決議された。つづいて鈴木氏の講演と長谷川氏の講演があり、活発な質問討論が行われ、正午有意義に会を閉じたのであつた。

連盟総会

本会場での研究大会終了後、本連盟の定期総会を開催した。

出席会員が少数だったので、懇談的に行い、石川勝蔵氏を議長におし、池田氏より一カ年間の活動状態、支部結成等の報告並に今年の活動方針が語られ、議事に入つて規約の一部改正、常任委員の選出などの件を附議し、午後二時閉会した。

▽西日本会場の部

八月十二・十三日、兵庫県姫

路市広嶺中学校を会場として開催された。参加会員は二百五十名に上り、九州、四国、中国を始め近畿の人々が多かつた。地元兵庫県教育委員会、職・家研究会の御努力によるといへう。会場は天下の名城白鷺城のそばにあり、姫路の北部にあり、会員は開会前続々と集つてきた。第一日は午前九時三十分開会、挨拶、祝辞等があつて、鈴木寿雄氏(第二群)中村邦男氏(第一群)山田明氏(第三群)の説明があり、午後は池田種生氏(第四群)の説明の後、質疑応答が行われた。午後四時半閉会后、夜の懇談会を変更して、引つづきこの会場で開かれ、切実な問題が語られた。

第二日は開会前に、昨日県職・

家研究会長大前久雄氏よりの動議により、西日本産業教育振興促進大会に切かえ、文部省及び全日本中学校長会への要望書が満場一致決議された。ついで清原氏、後藤氏の講演があつて、主として職業指導についての質問討論が行われ、正午池田氏の閉会の辞によつて幕を閉じた。閉会后会員の中の希望者は、すぐ隣の白衛隊、白鷺城の見学をして、有意義に終了した。

X X X

今回の研究大会に当り、地元の方々、殊に会場の先生方には、一方ならぬお世話になり、準備万端とどこおりなく進行して頂きましたことを、会員と共に厚く御礼を申し上げます。

(産業教育研究連盟)

産業教育研究大会に寄せる

感想・希望

今夏八月東西二カ所で開催した産業教育研究大会は、これまでになく多数の参加者があって、盛会ではあったが、また欠陥も見出された。参加された一部の方に感想を求めたところ、つぎの如く多数卒直な感想・希望を寄せて頂いた。厚く感謝します。

(編集部)

★東日本会場★

産教研の年中行事に寄せる希望

長谷川 よし一

産教研の夏季大会は、産業教育に志す現場実践家の楽しい年中行事の一つである。その趣旨に「産業教育の気運を盛り上げ、教育的に正しく推進し、職家を改善振興するため」に建議を批判しつつ指導要領改訂のため実践家の協力を……とある如く、本年は「二次建議による新潟案」とあって、北海道から鹿児島まで全国から集った同志の意気込みや、講

師陣への期待は極めて大きいものであった。実際私は例年この大会が研究への刺戟、実践への原動力となつて、一年間の力の泉で感謝に堪えない。以下は私の本年の感想である。

- 1、産教研連盟について
本連盟が正しい産業教育のあり方について、真摯な研究と実践に尽された功績は、戦後の中学校教育上極めて大きい事実である。元来この大会はその定期総会であり、一年間の成果の粹や地方の実状を集めて発表する協議会であるから、先づ劈頭に總會をもち、産教研の存在理由と活動目的を宣言し、本大会もその定例行事であるとの意に徹すべきではなかつたか。参会者に産教研の性格、主旨、事業、抱負等を披瀝し、意見聴取等によつて

会場の雰囲気を作り、さて研究発表へと大会気分を盛り上げるならば、客観的傍観気分も積極的になり、元来熱心なる同志の結合体である本連盟の所期の目的にも添うことになると思つた。

地方の我々としては、こんな機会に会員名簿、発表者関係者名簿等を用意して下されば、親近感と今後の相互連絡に便多しとの希望も多かつた。産業教育という響きがともすれば邪魔になり薄れる感じさえ生じた今日、本連盟の成果の一に会員意識のあることを忘れることはできない。

2、合宿研究について

本大会の最大の魅力が夜の合宿研究にあることは例年の経験である。本年はこのための会場構成が教室趣味で白墨くさかつた。長辺の頂点に講師席でなく、大部屋に何となく一対座して座談形式がよい。温泉にひたり夕食後のユカタ姿がウチワ片手にぶらり集つて、さて始まると熱烈火をはいて産教の本質をつき、地方の実状を訴え、講師の所信を正し、語り合う誠に痛快の極みである。人間というものはやはり絆をぬがないと前進はない。

今年は夕げのミキの酔興も添えられて笑わせられたものだ。某県某校の自慢話や宣伝は聞きにくい。職・家ももう何々プランから成長して、普通教育として正しいイスを全国全中学校に与えられるような普及研究の段階ではなかるうか。合宿研究の眞の成果と大きな魅力はこの意味で忘れがたい味だ。

次はカブキよろしく幹部部屋と大部屋小部屋も面白くない。しかも府県別にとじ込められては泣けてくる。今宵ばかりはフスマをはずしお互に他県市の方々と同宿談笑して全国に友を得るまた楽しからずやとこうしたセンスへの批判もあった。

3、新潟県案発表について

新潟が二次建議をいかに受取り解釈するだろうかは全国の注意の焦点であったし、これに対する講師の指導も大きな期待だった。新潟が早速建議の精神を取り上げこまごま定められた研究と努力には、大いなる敬意と感謝を捧げました。ただ各校がいかに取り上げて実践するか、共通領域は決められるものか誰が決めるのか、1/3でよいのか、地域性の取り入れ方等問題も出た。傾斜が多くなるほど施設設備の充実度が高くなければ実践がむ

づかしいので、自然と特設ある学校のみの一人舞台になるおそれがある。又発表者が立場、意見、実践の状況等事前によく打合せたり、県の指導主事や関係者の補足指導もカシトリの意味で拝聴したかった。特定の個人の熱意は認めるとしても、決定的熱弁も度を過ぎると感情的に響き会場の空気を方向づけて、他が沈滞することが常だ。よくも悪しくも雰囲気が出てしまおうと、思考や発言の自由がなくなってしまう。

とにかく産業教育の研究も今年あたりで基礎的な教育計画の時代から、いよいよ指導計画とその実践への研究へと成長したいものである。産業教育の振興と普及をめざして全国的な活動に努力して下さる産教研の功績を感謝しつつ、新潟県発表に御礼を申上げて愚感といたします。盲評多謝。

(浜松市立西部中学校)

自らの創意と努力

真篠 邦雄

私が大会に出席して感じた二、三の点につ

いて卒直に申上げてみたい。先ず大会の運営面において全体に研究討議の時間が少なかつたこと、即ちこれは新潟案に時間をかけすぎた嫌いがあった。大会が真に広く現場の教師の悩みなり、職業家庭科経営の苦心や、工夫等について語り合う機会になり得なかったことを残念に思いました。その点から考えると、むしろ夜の座談会の方が有意義であったように思います。前年までの大会の様子を聞きますと、出席者が少数のため具体的な色々な問題の討議ができたようですが、今後多数出席される場合の大会の運営方法について考慮されたいと思います。

つぎに今回の大会に出席された先生方の中に、中央からの情報を得て帰ろうと考えて出席された方が多かったことです。これは私が今迄に出席しました色々な大会を通じていつも感ずることがらです。現場における悩みが深ければ深い程、この気持は強くなるものですが、あの会においても説明されましたが、連盟の大会は官製のものではなく、我々の会であるという意識を忘れないことです。

私の学校は昭和二十八・九年と文部省の研究指定校として研究実践を試みましたが、全

教師の協力によって、二ヶ年間にこの教科の本質論から討議し「実習施設の管理運営」の研究まで進めました。その結果、私は現在までに色々な立場から論じられた研究資料や論文を基にし、その校の現状や地域社会の実態等を検討することによって、その校なりの新しい職家に対する性格・目標・教育計画・教科過程等の編成ができると思います。私達は全職員、即ち各教科の担任を含めて、産業教育特に職業家庭科の性格等について討議しましたが、その結果、技術教育を通じて国民経済国民生活を理解させる教科であり、義務教育における普通一般教育であるという性格づけは、自然に成立するような気が致しました。私たちはこの性格づけを基にして研究し、現在実践に邁進しておりますが、大会に出席した会員の中にも、棚ぼた式に上から何か示されることのみを期待しているようなむきが多かったように感じました。

仮に文部省からどのような指導要領が示されても、それに副った施設、設備のもとにこの教科の学習を展開できる学校など殆どありませんまい。私達はその方向さえ正しいみきわめをつけたら、現状において勇敢にこの教科

の実践に乗りださなければならぬと思えます。乏しい施設、設備も、要は教師の熱意によって次第に増加させ、また最大限有効に使用して学習に活用できるのだと思います。上から示されることのみを期待する前に、創意と努力によってこの教科の新しい方向への実践を踏み出さなければならぬと思います。

最後に、私は連盟が我々の会であるという認識を再確認して、会員の各位が連盟の発展、ひいては産業教育の発展に努力されることを希うものです。(長野県中野市延徳中学校)

現場の悩みを討議

岡安 章

義務教育である中学校に産業教育の精神を生かし、真に自立日本教育の確立を目指すことにより、真の新制中学校本来の息吹きを大きく表出せんとする吾々同志の研究會、そして又更に高度の熱意と實際活動の羅針盤的作用をなす本研究大会に、今回も幸に参加でき

教育実践活動の決意と自信を強めて帰校した事を喜んでいきます。つきに今後の希望を申し上げます。

一、新制中学校における本教育の必要や方向は最早論議の余地なく、建議案に没却することなく、吾々の意図する方向に一刻も早急に実践し、真の独立国の日本中学校らしい教育を展開すべく突進しなければならぬ段階であることを痛感する。然し又ひるがえって實際現場はそう簡単に実践の可能な環境でない。かく思う時に是非未だ関心薄い中学校に又父兄及び社会人に産業教育の意図するところを積極的に働きかけ、苦境にある本教育を一日も早く育成進展すべく一大運動の必要があるのではなからうか。これは私達の研究と併行さるべき重大問題でなからうかと思ふ。一、貴重な本研究大会もつとめて講演式にならざるよう、出来れば現場に苦しみ悩みおる生々しい問題の討議時間がより多く欲しいと思ふ。(グループ分科会的にして発言討議の機会を多くする)重要な未解決な問題を全体討議にするようにしていただきたい。

(埼玉県南埼玉郡小林中学校)

会員校の実態調査

高森 光二

会員の一人として会の発展を願うあまり、

私なりの意見を卒直に述べて見たい。

一、時期的に高原地帯を選ばれたことはよいとして、折角遠隔の地から馳せ参じた者も多いのだから観光の便を与えてほしかった。

二、会場を中学校に選ぶ場合は、少くとも会合の内容・目的とマッチした学校を選ぶべきであろう。

三、各種の研究発表大会といったような形式的な会合になっては余り意味はない。同好の志が膝をつき合せて語り、研究しあう内輪的な学会的な会合であってほしい。夜の座談会は洵により催してあったが、もっと計画的であってほしかった。振興会的な政治的な性格をもつことは好ましくないと思う。

四、この会で会員校の新教育の実体調査をやり、それを会員全部に配布されるよう希望する。(様式・用紙の型等は本部より一部宛配布のこと、会員は全会員に配布の数を印刷して本部に送付すること)

(富山県婦員郡速星中学校校長)

話し足らずの気持

上村 英

昨夏春日部の研究大会に出席して、産業教育推進への理論づけにも、又実践にも深い感銘をし、今年には産業教育研究指定校の発表の年でもあるので、何物かを得たいと自分も出席したいし、又当校の先生方にも出席される様におさそいして、校長先生を始め私共計五名で出席した。今感想をといわれて静にふりかえった時、何か期待はづれの物たりなさのみ胸に残っている。その原因をつきつめて考えた時、左の三点が考えられる。

一、新潟県案に対する批判が中核に行かない中に中心をはづれた話合で大切な時間を失った。

二、夜の会合の計画はよかったと思ったが、事実は何だか表面的な話合で、同じ仕事をしているもの同志の腹からの話合にならないでしまった。

三、色々の意見はあろうとも、家庭科が現在は産業教育の対照になっているにかかわら

ず、連盟はいつも之をまますあつかいにし、本気で研究したり話合する機会がない。

研究会が盛になり参加者が多くなれば意見の交換もむづかしくなり、又私の様に自分が会に参加しているのではなく、傍聴している様な態度のものが多くなるのも事実であるが、何とか方法はないか、話たらず聞きたらずの気持を持ったのは私一人であろうか。

(新潟県南魚沼郡塩沢中学校)

教科理解なお不明

池浦 順一

産業教育研究大会の名にふさわしい充実した会であったと思います。その点清原先生始め連盟の指導的立場の先生に感謝致します。

次に感想と希望――

(1) いったい職家科教育ほど、他の教科の教育に比してわかりにくいものはない。文部省課内の混乱がそのまま出てくるので、それも当然と思われるが、われわれ実務家にとってには実に困ったものである。

さて今度の大会であるが、矢張り教科理解

のうえですっきりせぬ点がある。例えば必修課程の教育内容で、共通と傾斜の問題だが、何故○をつけ△をつけなければならぬのか、その点の説明が明確でない。新潟案で説明者は、最後は勘で○△をつけたと言っているが、こういうところに該科の晦渋さが伏在すると思われる。その点講師先生の的確簡明なしかも具体的な指示がほしかった。

(2) 職家科のすっきりせぬ因に、家庭科に対する男子生徒の問題がある。理窟は立場で如何ようにも立てられようが、とにかく第二次建議の第四群をのんで、大会に職業科、家庭科の分離問題の出なかつたのは淋しかった。

(3) 文部省は本年の十二月までに職家科の改訂案を出すそうである。その直後、それを資料として文部省、連盟、一般教員、三者合同の研究会を開催することを連盟にお願いしたい。論勿関係文部事務官(農工商家)と、連盟指導者全部一堂に会しての大討論会をやってもらいたい。そしてその場合に、研究に対して不親切な文部事務官は、直ちに職を退いてもらうように勧告することにする。

こうした催しが、目下施設、設備職員組織と不振の因をもつ職家科に活を入れる端緒に

なるのではないだろうか。更にそこからすっきりしたものも生れてくると、私は思う。

(福岡県遠賀中学校長)

文部省期待は禁物

大口 徹二

回を重ねる毎に充実発展する研究大会と、地元新潟県の産業教育に敬意を表し、さっそく横着な感想を一つ。

必要以上に文部省の発表を期待する方の多いのには、驚き且つあきれれる。どう考えても産業教育を推進する原動力が文部省にあるとは思えない。特に第一次建議で審議会に敬意を表したわれわれも、第二次建議に失望し、しかも第二次建議までのいきさつには、ただあきれれるばかりで、第一群から第五群までのハッターリは誠に情けない。真理も科学性も、偏ばな繩ばり根性の前には、第二義的な存在でしかないのだから、そんなものに全面的期待をかけるのは全く禁物である。われわれは、生産社会の教育が担う使命を明確にした上で(産業教育以前の問題が未解決のまま、現

場は身動きもできない苦境に立たされているので、この面の解決には当局の処置を期待するが)科学的な基ほんの上に立って、考察し実践するわれわれの努力こそ、最も期待できるものだと思う。ここに本研究大会の意義が見出される。(愛知県津島市神守中学校)

グループ討議を

小西 一郎

汽車の都合で会場校へ着いたのは十時半頃でしたが、恰度新潟県の研究発表でした。その後討論会などあって結構だと思ひ、又、夜宿屋の座談会もよかつたと思ひます。翌日の各講師の話も分り易く、時間通り日程に従つて気持よく会が運営されたことは、各お世話の係の先生、司会者、学校側の綿密な計画と、蔭の方々の御努力、関係各位の御世話に深甚の謝意を呈します。特に私は数学、英語が専門で、産業教育研究校の一員として出張させてもらったので、今まで自分の研究不足のためよく分らなかつたことが、大体ながらも掘めたし、産業教育の実践についても、ある程

度確信を得て、本当によかったと思いましたが。ただ当然いかもしませんが、各グループに分れて、実践経過や討議をして、全体で整理発表されたら、もっと大会中の質問がより具体的になり、効果的にムタを省けてその成果も上ったのではないかと愚考致します。又基礎学力関係の実践研究発表が聞きなかつたと思います。

(石川県小松市板津中学校)

随筆 山と研究会

井上 健一

新潟県といっても妙高温泉は草深い信濃路である。戦前、毎夏のように信州通いをつづけてきた私も、戦時中からは訪れる機会もななく、縁切れになってしまっていた。二十六年の秋、久しぶり新潟から上高地へ向かう途中信越線田口駅のホームに下車した際折しも一面に紅葉を飾った待合室附近の情景が、とても強い印象となって、脳裡から消えさること

がなかつた。

八月五日のお昼すぎ、私たちは再び田口駅に降り立っていたのである。

同行のI君は、温泉で一泊すると、明日は教え子の待つ仙台の七夕祭りの客に招かれてゆくという。駅前の店先の立て板に「産業教育連盟全国研究大会東日本会場」と大書した白紙が目飛び込んできた。

駅から妙高温泉まではバス、予想外に近かつた。街は信州でよく見かける田舎家が軒を並べている。合宿はその中の一軒であつた。確かに涼しい。というよりは肌寒い位である。焦熱地獄で呻吟していた私たちには、この冷え冷えとした山の靈気がとても嬉しかつた。早速一風呂浴びると生き返る思いがした。そばをとって昼食をすませた。

×

一休みの後、研究会場である妙高中学を訪ねる。街裏の小高い丘の上にあるこの学校からは、妙高山の中腹にかけて点在する、赤倉や池ノ平の温泉宿が、木の間にぐれに仰がれた。

人気がない玄関から、長くつづく廊下をつたつてゆくと、会場の入口の部屋で、泰三さ

んが書籍のサーヴィス販売をやっている。聞けば会員は百五十名を超えているという。交通の不自由なこの会場に、よくもこんなにまで集つたものである。入つてゆくと宏壮な講堂に、ゆつたりと机が配置してある。右手の講師席には幹事のお歴々がくつわを並べ、左手の役員席には珍しく大阪の青木さんも控える。

丁度会場では白熱の討論の最中であるらしく、遠来の会員から、強いなまりのあることばで、盛んに文部省などに毒ついていた。鈴木講師が文部省の代弁者に擬せられているのであろうか、苦笑と共に頭を掻いているのが、とても滑らかな感じがした。高くて広い、つき抜けの屋根裏に、きいんとこだまする調子の高い声を聞きながら、この連盟の生い立ちにまで回顧したり、さては研究会の性格の移り変りなど、考るともなく考える。

×

第一日が終ると、会員は思い思いに野尻湖など探さくした。

夜は晩さんを共にしながら評議員会がひらかれた。さすがに山料理ではあつたが、旅情を慰めるに十分であつた。各地の情勢報告があり、地許の林さんたちに労いのことばがお

くられたりした。

やがて恒例の懇談会の時刻ともなれば、階下の広間には、会員が三々五々集ってきた。レギュラー講師である幹事を囲んで座をつくる。ここで池田幹事から鈴木先生の役員辞任の事情が紹介された。先生の苦衷が察せられぬではないが、私たちには少々納得がゆきかねて、淋しいものが感じられた。後任に、エネルギッシュな吉田先生を迎えることのできたのは心強い限りである。

X

私には若葉荘の一夜以来、連盟の会合や研究会で、この懇談会の空気がたまらなく親しみ深く、好感がもてる。こんなに連盟をここまで育て上げたものは、池田先生の野人的性格からくる寛容を中心とした、ざっくばらんな庶民的感情ではないだろうか。今後連盟の成長と共に、全国大会のような大規模な集会が必要となるであろうし、勢い雑多で数多くの会員を擁することは明らかではあるが、やはりこの懇談会に流れている同族的心易さを損わぬように、会員お互に心掛けねばならぬであろう。この晩もF市の中学校の校長さん

と担当の先生が、一杯気げんでまくし立てたが、それでも懇談は淀みなくつづけられていった。

○

第二日は引きつづいて討議が続行され、午前中で研究会は終了した。遅くれ馳せに参加した私には、内容にまで立ち入って批判するのはせん越であろう。午後は別室で総会が開かれた。その際指摘せられたように総会の持ち方には工夫の余地があるように私にも思われた。ここではできるだけ多くの会員の盛り上りが大切ではなからうか。このことは、会の終了後、青木さんと二人で、戸隠から上高地を経て乗鞍をバスできわめ、高山へ下りて、八月十日から三日間、岐阜市で開催された教育学研究会に出席したのであるが、そこで開かれる発表や討議にくらべ、或は総会の空気を比較して、ハッキリ感じたことであつた。勿論千五百を超過したこの大集会には、一面、前に記したような、心底から湧き上ってくる家族的気分の酌みとりにくいということも、また避けられぬところではあつた。

(兵庫朝来郡梁瀬中学校)

研究発表者側から

林 勇

中央産業教育審議会第一次案が建議され、産業教育の中核として職業・家庭科も、前進的な一歩を踏み出してよりここに二年。

低職業教育思想から出発する「職業科」という考え方を一応脱却し、中学校における職業・家庭科は、普通教育の教科として国民経済への理解をする中心的位置をしめるものである。という認識がやっともたれてきた。

産業教育が正しい視点から理解され、真に重要視されてきたからである。ゆがめられない「産業教育」即ち日本の正しい平和と、独立という民族的課題にこたえる教育、このねらいにそって、中学校職業・家庭科も、しっかりと根本のすじみちをたてて、相当に現場の実践がすすめられ、着々と地に根がおりてきたものと考えてよからう。

○

当地妙高山麓、妙高中学校における東日本産業教育研究大会に、全国から集まられた先生方の研究意見や、懇談の中からも強くそれ

らのことが感ぜられたのである。

しかし現在の中学校の状況のもと、施設、設備の面からみても、教師の指導力の面からみても、これからの発展は決して楽感すべき実情にはない。又ひるがえって単に施設、設備の完備や、教師の熱意のみでもこの教育の発展は望み得ない。あくまでも職業・家庭科の根本のすじみちをおさえ、お互いにかかりとした柱をたてて実践をすすめてこそ、はじめて発展への希望が見出せるのである。

○

さて今般の東日本産業教育研究大会は、たしかに地味な、そしてもの静な大会ではあった。しかしはつきりとうち出された産業教育研究連盟の「施設々備の運営に関する研究」と、講師の、中学校における産業教育と、職業、家庭科実践の方向づけの指導こそは、われわれ実践家に、明日からの正しい現場の在り方と、そして将来の発展への希望をあたえてくれた。われわれはこの二日間の研究大会でそれぞれに、しっかりと柱をうちたてて、明日の実践に自信をもち、情熱にもえつつ大いなる前進を誓って現場へと散ったのである。研究連盟並びに、講師団の先生方に対し

て、ここに厚く感謝申し上げる次第である。

○

それにしても参会者の諸氏に申し訳なく感じ、深く自己批判をしておわび致したいことは、大会地元として担当した発表の、研究不十分についてである。勿論講師団の適切なる御指導により何とかその任を果してはきた。

しかし各地の職・家の推進力として、指導的地位をもつ会員の諸氏に、この案が少くとも、他山の石として参考になり得たかどうかを考えると、われわれとしてはどうしてもここにおわびの言葉をいわざるを得ないのである。さてその新潟県案「中学校職業・家庭科の手引」についてあるが、新潟県中学校長会が現下日本の課題解決のために、特に産業教育の重要性を認識し、県全体の産業教育推進のために、産業教育推進委員会を組織し、いろいろな面に働きかけるといふ仕事と共に、現場の実践教師を動員し、協同的な家庭研究によって、中学校産業教育の中核である職業・家庭科の教育内容を再構成し、教育内容の面からこの教科の振興を企図して、その立案に着手したのである。即ち中学校長側・県指導主事側、それに実践現場の教師、これ

ら三者が一体となって、共同研究をおし進めて参り、職家の必修における教育内容の最低必要と思われるものを抽出し、ここに「手引」としてまとめた。

これは(一)必修における教育内容の最低必要と思われるものを選び出す。(二)男女共に必修すべき教育内容を明らかにする。(三)これらの実践に必要な設備の最低限を明らかにする。以上三つのねらいをもって立案された、一九五三年案、即ち第一次県案(職業と教育三月号、新潟県中学校長会案参照)をもとにしてそれを改訂編集したものである。

この「手引」一九五五年第二次県案は、あくまでも、第一、二次答申案の精神にのっとり、その専門部会の研究成果を活用して、男女共通必修の内容に重点をおき、本県の実情に即した内容を選定し、現場の実践計画立案に適用されるようにと編集した。そのねらいは、(一)第二次建議に示された基本的各分野及び項目の整理検討、(二)各分野、項目毎に教育内容(A、B、C)を設定し、共通、傾斜領域の内容を明示、(三)各学校の指導計画への適用(単元構成・学習指導及び計画・計画適用のための問題点)以上の三点であるが、どこ

までも普通教育という立場からみて、男女共通にこれだけはぜひ学習させたいと考える内容、そうした基礎的なものはっきり設定するという態度に重点をおいた。

○

県下各学校の現在の実情からみて、共通領域の学習を全学習1/2の二分の一あてるということはむずかしい。そこで県案としては共通領域の時間を1/3程度として、男女共通の教育内容を設定した。

とにかく現在、新潟県ではこの「手引」を基準として、どんなに遅れている学校でも誠意と、熱意をもって努力し近い将来には共通学習が1/2以上実施出来るようにと、全県下協力しあって日夜努力を続けている。

大会におけるこの県案の発表は、たしかにまずい結果ではあった。しかし現場教師が全県一丸となり共同研究を行って、戦後われわれにゆだねられた教育内容の編成を、自らの手でなし、お互に実践というふるいの目を通して改善する。そして更に実践に努力を続けていく。かかるわれわれの研究態度だけでも参考にしていただければ幸いと考えている。

第一次建議の精神にそって、あくまでも正

しい職業・家庭科の家庭とその発展を願ひ、会員諸氏の一層の御奮闘を祈ってやまない。大会地元として、参会者への御礼とおわびにかえてここにつたない筆をとった次第である。(新潟県高田市大町中学校)

★西日本会場★

私の一つの願い

岡 悌雄

ではないでしょうか。

われわれの一つの願いは、教育現場の方々が、ひとまず理論のすじみちを早く身につけながら、実践↓認識↓再実践↓再認識という循環的な、立体螺旋フォームとでもいうプロセスを着実に押進めていただけたらと思うことです。たとえば、今回の西日本研究大会で質疑に出た「基礎的技術とは何か」といった問題にしても、現在、大阪市で研究を進めている「男女共通領域」のテーマにしても、みな複雑な条件が重なっているから、こうした研究フォームによらないと結論らしいものは出ない。このことは、すでに三十年前、米国における基準能力設定の問題に関する全国教育協会による「教育における時間経済委員会」の四つの研究方法のうち、どれを採用したかをみればさらに明かでしょう。さすがにここでは数名の専門委員の判断のみで決定するという危ない方法はとっていない。全国の代表的なカリキュラムを調べ、経験と実験の主な傾向を探究し、進歩的な実験を調査することから仕事を始めています。

ところで、職・家科の教育内容や指導法など、具体的に研究していくとき、社会の理想

と課題、それから技術の哲学や、教育哲学の立場をどうとらえるか、問題になってくるようです。これらの問題に関しては、すでに一部分ではあるが、この連盟の研究もあるし、成長してやまない研究家の主体性にまかせたい。さらにその実践の中から、自信をもって、試案などを修正されるよう期待するのは慾が少し深すぎるでしょうか。

研究集会などの場合も、研究主題の問題点をしっかりとつかみ、実際に指導した体験、自分の考察、あるいは妥当な評価を通して積極的な意見をのべたり、自分の指導結果や見解に対して、講師さんの批判をうけてみる、といった運びにでもなれば、成果も大いにあるとひそかに念じているのですが、あるいは理想にすぎるといったお叱かりをうけるかも知れません。しかし、年々めざましい躍進ぶりをみせている産業教育研究連盟は、もともとこうした趣旨で研究会を進めてきているので、ここに平凡な言い草によって、改めて再確認してみたわけです。

(大阪市教育委員会指導主事)

意義深し、だが ウワスベリの感

植田 寤

今夏姫路市において産業教育研究連盟と兵庫県中学校職家研究会との共催で、盛やかな産教西日本大会が開かれ、現状勢下に誠に意義深く大きな成果をおさめられたことに對し、平素この種教育の現場にある私共として心かこらよるびにたえない。また一方ならぬ主催者側、研究団体の方々の御努力に對し、深い敬意を表します。

さて折角遠路鳥取県からの参加を幸いに思い、二日間の日程に終始全神経を傾けたことであつた。しかし少々遺憾に思われたことは、二日間とも大変盛り沢山の日程内容が型の如くに進行せられてしまつて、多少ウワスベリの感があり、私達の期待していた講師の方々の時間が、僅か四十分や五十分間づつで区切られた点である。質疑応答の時間を利用しようとしても、各人各様の問題に解決を得て満足するまでにはいたらない。例へば私共鳥取

県の場合は、基本的分野の共通必修の項目を精選して、減じていくがよいか、或は各項目の極めて基本的な知識、理解、技能を選んで学習させるがよいか、どちらにしてカリキュラムを編成していくように研究の結果、結論を得ているのである。この場合國民として一般産業に對する知識理解として、ほんの教養程度の学習をさせることにすれば、この教科の目標はほとんど達せられないと思うし、この教科に混乱を生ずることになると考えているのである。これ等のことは職業と家庭とを一教科として筋を通そうとしていることに無理があると思われ、このような観方からあの第二次建議文を批判して論議したのは既に昨年度である。

このことは第一次の建議「教科のたて方」の項(1)職業と家庭とは学習内容も関連し学習方法も共通性があるから一教科とする。(2)しかし職業と家庭にはそれぞれの学習系列があるからそのことを明確にする)にはっきり表現されていたことである。ところが第二次の建議に及んだとたんから現行指導要領が、仕事の取りあげ方があいまいであると批判していなながらも、依然としてあいまいな表現で

第一次建議の目的性格からくる精神をほかしてあるような感じで見ている吾々である。このような点についても、充分講師先生自から説明しようと心組んでいられたものと思われたのであるが、何分短時間、結局第二次建議の核心にふれられる時間が今少しほしかったと感じている。

つぎに、本県の職業指導については、も早や職家科と混迷の時代は既に過ぎて、教科と職指とは、理論的に明確に区別して経営されているから問題はないのであるが、現実には職家担任が職業指導主事を兼ねているというのが多い。また従来から職家の仕事を、トライアウトとして職指に結びつけ、そして適性を発見さすべきだと主張し続けている職指協会の著名講師の方々の御意見に迷わされている者もあるという現状である。

今では職家の指導要領も新しく改正されようとしている時である。その位置づけのみを今大会の目標とするのは何か物足りないものがある、今一步進めて職家科の研究と共に別途の立場で、主として職指主事を対象とした実力養成のための日程と内容を加味せられることを望んでいた者である。

しかしそうは言っても、教育の仕事の成果は一朝一夕にその効を奏するものではないし、また制度そのものの改訂も現状と新教育の進路とをよく見つけて漸進的に進めなければならぬのであって、このような意味あいから、今夏大会では建議案による教育内容によって、現場に必要な具体的な教育実践のあり方を各群別に示されたことは、平素この道に精励している者には意義の深かったことに感激している。早速本郡職家研究会では、前述した職家の新しいカリキュラム編成の研究を続行する何回目かの会を今月中旬開くと共に、兼ねて今夏大会の報告も併せて行い、之等を資料として新段階に歩を進めようとしているのである。

(鳥取県気高郡山西第一中学校)

極めて有意義な会

渡辺 汎俊

中学校職業・家庭教育振興上極めて有意義な催しで感謝に堪えない。年を追うて進学準備教育偏重の弊風は、新教育の人間形成も何

も彼も骨抜きで、つめ込み主義一点張はまことに寒心の極み、ここで中学の職家の教員は勿論のこと、教育行政面担当の指導層始め、民主的なこの方面の研究団体あげて、斯教育振興に一段と奮起を要する秋ではないでしょうか、この意味から先般の姫路における西日本産教研究協議会は極めて意義深いものであいたと考えます。義務教育における産業教育こそ人間教育の中枢をなすもので、この教育を抜きにしての叫びは一片のペーパーランに過ぎず一顧にも値しない。然るに現場の多くは教師の中には、ここから逃避せんとしたり、強い劣等感に陥入って推進のは気に欠ける向も尠くない様に察せられる。自信もって前進するために、社会啓蒙のために更に研究会の実施を希望したい。

(兵庫朝来郡生野中学校長)

関係者及び講師へ

感謝する

白石 泰吉

平素、産業教育研究連盟の機関誌「職業と

教育によってのみ、相互の連絡をもっていた西日本の代表的会員が、去る八月十二、十三の両日に亘り、姫路市広嶺中学校に会して、斯界の権威者を招き、貴い発表と指導を受け、会員諸賢の真剣なる討議により、問題点を数多く明らかにし得たことは、未だに軌道に乗らない。この重要な産業教育振興の爲め極めて有意義であったと思います。殊に地方においては、産業教育は指定校の独占物になっているかの感が強く、全く孤独な存在であります。今回の全国的な研究会により、平素の所信を一層強く持って今後の精進をなすと共に、教育の全面に生産性の筋金が入って、新しい教育の実現に努力したいと思います。関係学校、講師諸先生の御尽力を多謝致します。

(愛媛県大州市菅田中学校)

聞く会からの脱皮

真辺 完

最近産業教育研究に関する大会が各地を催されるようになったことは、この道に関係するものとして意を強うするものである。

産業教育研究連盟の西日本大会は、特に地

元姫路市、兵庫県の共催、後援という完璧な計画によって、参会者も多く、講師陣の活躍と相まって盛會に終始し、会員も多大の成果をおさめ得たことは意義深く、嬉しく感謝しています。しかしながら本会場における主題は「中学校職業・家庭科と職業指導の位置づけ」にあった筈だから、もう少し焦点をここにしばって、討議の時間をもっと多くとって欲しかった。要は会員自身がどれだけの問題意識をもっているかということにつきるかもしれないが……。現場の問題は山積しているその現実の問題を出し合い、整理し、それを学問的体系のもとに解決づけて行こうとする意欲。逃げごしでなく、正面からがっちり取り組むための問題意識と気魄そのようなものが特に欲しいと考える。ものを聞く会から脱皮とも言えようか。会員の自覚によって是非そこまで意識を高めたいと思うや切。

(熊本市西山中学校)

初歩者と経験者を

区別したら

下田吉太郎

現在実践人として、中学校産業教育の進め

方に関し解決方策を求めている私は、この産教研究大会に期待をかけて参加したのであるが、一言所感を述べたい。

元来、このような各種集會は平素の書籍、雑誌による研究だけでは中々理解できない問題点を親しく大家の講義によって会得したり、会員相互の研究協議を通して啓蒙されるところに大きな意義がある。さて、今回の會合を反省して見るに、主催者の準備計画宜しきを立て、講師は斯道の権威者を揃えていた。又、講師諸先生は親切丁寧に会員の疑問とする点の解説に当られたので、産教に対し年来の疑問を氷解することができた。これは私ばかりでなく、参会者全員の認めるところであろうと信ずる。

次に、今後の研究大会の持ち方について、より一層成果をあげてもらうために、以下の諸点を要望したい。

一、研究大会の行事について

参加者の産教に対する理解や研究の程度には可成差があるように思われる。従って、一般講演、特別講義、班別協議等において、初歩者と経験者と区別して研究を進めていくようにプログラムを編成する。

二、会場校の研究参加について

会場校は研究大会におけるテーマと済結した研究テーマを事前研究しておき、授業公開等を通して参会者を啓蒙する。

三、会場の所在地について

参会者の都合を考えて、会場は交通に便利で参会に時間を要しない学校を会場校に選ぶ。今回の会場はバスを下りてから交通の便悪く、大変骨が折れたようであった。

(京都市立陶化中学校長)

盛会すぎたために

瀬尾 善一

行詰った職・家に一つの方向を見出すべく、色々と書物をあせる途中偶然に貴連盟の冊子を手に入れ、すっきりと筋の通された内容に「これこそ」とすぐさま会員に申込み丁度二カ年。昨年宝塚における研究会に参加、有意義な研究を終えました。さて残された大きな問題として、従来職・家の領域と考えられていた職業指導の位置づけが解明されないままに、今日に及んでいたものを祖上に、本年姫路会場において検討されることは極めて適切でありましたが、盛会すぎて受講生多数のため、昨年の宝塚会場に比べ身にせまるものを感じなかった。尚研究が産業教育一般に及び、研究題目と取組む時間に制約を受けたこ

とを少々残念に思います。職業指導主事のおかれぬ私達の学校では、連盟の主張が理解され乍らも、慣例により職業指導が今尚職家にとって大きな負担となっています。

姫路会場へ御出の好機を逃さず、池田種生先生にわざわざ私の学校まで御足労を願ひ、職員一同先生を中心とする研究会を催し、目下先生の主張されるところを中心として校内研究を進めています。こうした研究討議の中から必ず新しい職家の教育実践に、ささやかな努力をつづけている次第です。

(京都府熊野郡高龍中学校)

質疑の時間が不足

山道 福松

非常に盛会で、産業教育に対する熱意を盛り上げる場となりましたことは御同慶の至りです。会員が多かったためでもあります。質疑・討議の時間が不足したことは残念でありました。会員が予め資料の交付を受け、充分これを研究して、当日は質疑や討議を通じて講師先生の指導・助言を受け、問題を解明していただくような会の持ち方が望ましいものではないでしょうか。(残念ながら当日所用のため、度々座を外しましたので、当ってないと思えますが悪しからず。)

(神戸市楠中学校長)

一層確信を深めた

三宅 俊雄

近畿、中国、四国、九州と相当遠隔の地から会場が狭い程に参会され、熱心な会であったことは、産業教育の進展のため喜ぶべき姿であったと思う。校長も多数出席されていたが、将来は更に職・家関係教師以外の教師も進んで参加され、夫々の立場で研究に加わり産業教育についての正しい認識をもつことに努力してほしいものだと思う。中学校の産業教育、それは職業・家庭科が担当するものだが、との観念をなくするために。

二日間にわたる講師の講演と質疑その他の日程中、講演の時間が短かいため、骨組だけのお話に終らざるを得なかった点は物足らなを感じた。もう少し講演の時間がほしかった。次に家庭に関する分野について、連盟でも研究会を開いて研究されているようですが、適任者を委員として一層強力にこれを進められ御指導を願ひ度いと思う。

中学校における産業教育に対する考え方、及び職業・家庭科について建議の受取り方、過途期の経営を如何にしたらよいか等の問題について、平素私の学校で研究しておることがらについて、この大会に参加して確信を強めることが出来たので、自信をもって斯の道の研究に努力したい考えです。

(岡山県小田郡美星町立日里中学校)

教師の心構え

産業教育研究大会に参加して

稲田茂

去る八月五日、六日の両日、新潟県中頸城郡妙高中学校において、産業教育研究連盟と新潟県校長会の共催により、産業教育研究大会が開催された。異常的な酷暑の中にもかかわらず、全国各地から多数の熱心な実践家に参加し、中央産業教育審議会の第二次建議および新潟県職業・家庭科プランをめぐって、活ばつかつ真剣な討議がなされ、まれにみる盛会であった。しかし質疑の中で、ある参加者が「現在教育現場にある我々は、職業・家庭科を現行学習指導要領によって行うべきか、建議案によって行うべきか迷っている。第二次建議はその後どう推移したか、具体的に説明を願いたい。我々は、それをみやげに学校へ帰って、早く新しい文部省案によって学習指導を実施したい」というような趣旨の提案をし、本大会に参加された文部事務官に説明を求め、それが拍手をもってむかえられるというようなことがあった。

それに対して、事務官は「直接私の担当する仕事ではないからよくわからない」というように答えておられたが、実際には、第一次建議以来、この仕事に深い関心を持ってこられた方であるから、その後の推移も十分御承知のことと思う。ただ非公式に参加されたこ

ともであり、また審議中の事項を軽々しく発表することもはばかられるので、このように述べられたのであろう。しかし、提案者はさらしつように説明を迫り、それがまた拍手をむかえられた。もちろん、拍手は必ずしもこの提案を全面的に支持するものではなかったと思うが、二日間の討議を通じて、この提案のような考え方や要望をもった参加者も少なからずあったように見受けられた。こうした要望がでるのは、中央産業教育審議会から第一次建議がなされて以来、何ら具体案が示されなままですでに二年半の歳月を経ているのだから、当然のことだといってしまうればそれまでだが、筆者は、現場教師によって、こうした要望が支持されることに、一まつのきぐをいだかざるをえない。

そもそもこのような提案が支持される意図には二つの立場が考えられる。第一は、文部省案といえれば一般にこれを絶対視する傾向が強いため、その内容を発表以前に知り、地方へ帰って新知識として吹聴し、自己の権威を強調しようとする立場であり、第二は、文部省案を金科玉条とし、それにそわないことが違反であるかのようにさえ考えて、無批判にそれを受け入れて、案の通り忠実に実施しようとする立場である。こうした立場は、往々独善的にそれを固執し、他にそれを強制し、あるいは易々諾々として形式的な学習指導にあまんじる傾向にはしりやすく、建設的方向へ発展することは極めてまれである。むしろこうした立場が教育の正しい発展のための障害になっている例は、現在でも全国的に少なからず見受けられる。

戦後わが国が、近代的民主主義国家の確立を目指して立ち上がり、教育においても、この線にそって教育基本法が制定され、真理と平

和を希求する人間の育成を企図したにもかかわらず、現場の教育が常にこの目標からほど遠いものとなり、過去十年間のまわり道を余儀なくされたことは、教育制度や経済事情もさることながら、こうした現場教師のあり方が大きな原因となったことはいなめない事実である。例えば、現在話の泉の泉であると非難される生活経験単元学習にしても、慎重な批判・検討の上で、現場の教育に取り入れられたものではない。もし慎重な批判・検討がなされていけば、当然もつと違った実践の姿があらわれたはずである。職業・家庭科にしても、先進的な一部の学校を除いては、技術学習に極めて不適当な実生活中心主義によって、非組織的無体系的な学習指導がなされ、いたずらに消費生活のまわりをはいまわる教育が平然と行われてきたのである。

しかも、正しい産業教育の立場から、実生活中心主義の誤りが明確になった現在においても、なお、新しい学習指導要領が示されていないという理由で、現行指導要領を支持し、これをおしつけようとする一部指導者のあることや、今もって建議案を一顧もしようとしない教師のあることを見ればこの事實は明らかである。このように考察すると、前述の提案のように、いたずらに文部省案のみに関心を払い、これを絶対視して無批判に取り入れようとするような現場教師の態度は、今後大いに改められなければならないことができる。こうした態度が続くかぎり、教育の正しい発展は望むべくもなく、いたずらに過去の誤りが繰り返されることは明白である。

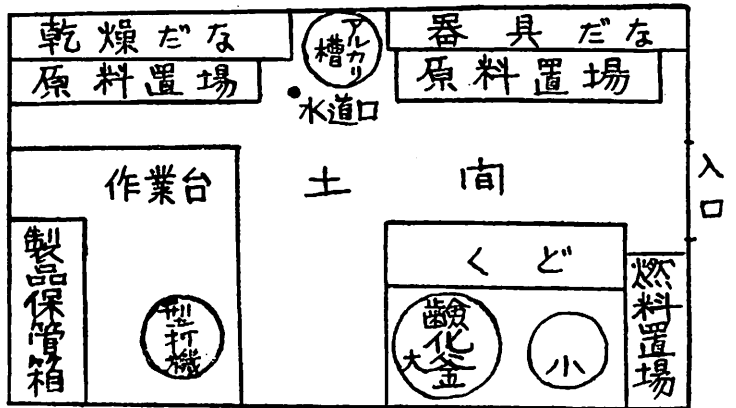
文部省案は、わが国の教育の今後の方向とそのよりどころを示す

ものであって、決して絶対視すべきものではない。従って、職業・家庭科にしても、すでに初等中等教育局長の昭和二十九年十一月五日づけ通達によって、中央産業教育審議会の建議の趣旨を尊重して近く学習指導要領を改訂するという意図が明らかにされた以上、教育現場にある我々は、この教科の正しい発展を図るためにも、過去の誤りを繰り返さないためにも、現行学習指導要領を慎重に再検討し、その批判の上に立って、建議案（第一次・第二次）を冷静に検討する必要がある。その上で、綿密な学習指導計画を立案し、その実践の結果を中央に反映して、生れくる新学習指導要領が、真にこの教科の正しいよりどころとなるように努めなければならないと思う。この点、前記のように、文部省案といえどかく迎合しがちな風潮の中にあつて、新潟県中学校長会が、文部省案の発表以前に、第二次建議を検討し、全国にさきがけて独自のプランを作成したことは極めて有意義なことであり、プランそのものにはなお再検討の余地があるとしても、その積極的な熱意と努力は全く賞讃に値するものである。またこのように文部省案をうのみにすることなく、真摯な研究を進めることこそ、教育現場における正しい教師のあり方であるということができよう。今後、こうした研究が全国的に教育現場に取り上げられ、科学的社会的検討の後、実践に移されることを切望してやまない。

以上本大会を省みて、教師の心構えについて筆者の感じたことを述べてみた。何かの御参考になれば幸甚である。

（川崎市御幸中学校・本連盟常任委員）

理科室の一隅を利用した本校の石けん製造場（約6坪）



一、指導の目標
 職業・家庭科の化学部門の一つとしての石けん製造に関する技術を身につけさせ、仕事を通して、科学的技能・態度を養うと共に、科学的生産人の育成を目標とする。

二、用具と材料

石けん製造の学習指導

愛知県碧南市新川中学校 杉浦弘幸

○用具……燻化釜、カマド、アルカリ溶液貯蔵容器、塩水ボイメ、温度計、上皿天秤、自働上皿秤、電気乾燥器、デシケータ、フエノルフトレイン溶液、攪拌棒、固化枠、切断枠二種、切断針金、型打機、型、包装紙など。

○材料(原料)……油脂、苛性ソーダ溶液、香料、色素など。

三、石けん製造の計画と準備

(1) 石けん原料である油脂を選択する

石けん原料となる油脂は極めて多くの種類があり、又グリセリンを除いた脂肪酸を使用する場合もある。その上、製造する石けんの種類によって使用する油脂も異ってくる。多く使用される油脂としては、椰子油、オリブ油、大豆油、牛脂、豚脂、硬化油、糠油などである。油脂の選択に当って、二〜三種の油脂を混用した方がよい。

(2) アルカリ溶液の作成

硬石けん(ソーダ石けん)のアルカリとしては苛性ソーダを用い、約80、四〇度の水溶液を作成して貯蔵する。貯蔵容器は鉄製の槽、あるいは、陶器槽を用いる。苛性ソーダの濃度は、ボイメ度で表わす。

(3) 色素香料の選択

色素香料とも、その種類極めて多く、油脂が着色している場合には少量の色素を混入させ、油脂に不快臭ある場合には少量の香料を添加する。洗濯石けんの香料としては、安価な樟脳油がよい。

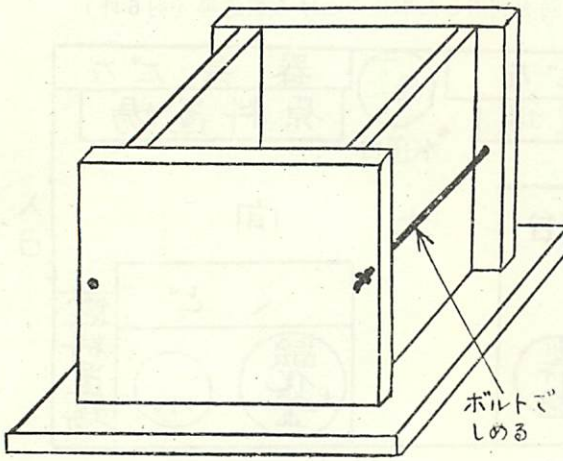
(3) 油脂の秤量

適当な容器(例えば一斗カン)に油脂を入れ、計算量だけ秤量し燻化釜に入れる。

(5) 所要アルカリの計算と秤量

油脂の燻化に要する苛性ソーダ量は、第一表をもとにして、次のように計算する。

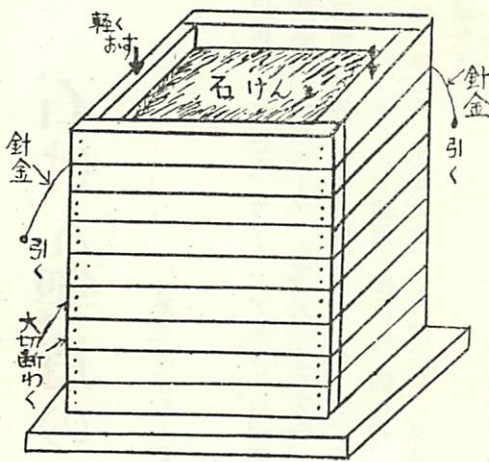
第1図 固 勿 わ く (木 製)



- (7) 洗濯石鹼配合例
 椰子油 二疋 苛性ソーダ
 牛脂 八疋 Be・四〇度のもの四・三疋
 石鹼切くず少量 水 一・五疋
- (6) 燃料の準備
 カマドで燃す燃料として、薪を用いる。

$$\text{Be}40^\circ\text{の苛性ソーダの量(g)} = \frac{\text{(鹼化に必要な苛性ソーダのg数)} \times \text{苛性ソーダの純度}}{100} \pm 0.3496$$

第2図 大口切断機 (木製) の操作



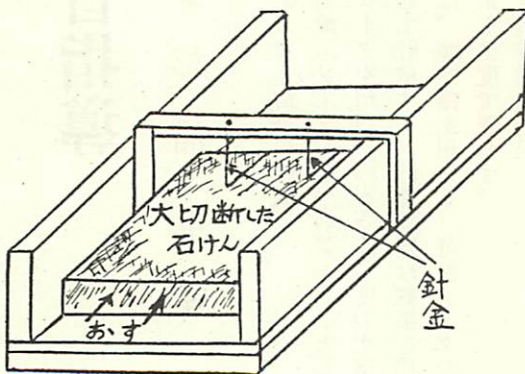
四、石鹼製造の操作

(1) 鹼化操作

秤量した油脂を鹼化釜(本校では約二斗入)に入れ、除熱して溶融させる。このとき、石鹼の切くずを少量混入させ、さらに計算量の水を入れ、温度を六〇〜六五度にする。

次に、秤量した苛性ソーダ溶液の約1/3を入れ、温度を六〇〜六五度に保ちながら、約三〇〜五〇分、攪拌を続けると、液は粘性を増し、乳化状態に近づいてくる。さらに温度を八〇〜九〇度に上げると、完全に乳化する。

第3図 小切断機 (木製) の操作



この時、所要苛性ソーダ液の約1/3を加え、攪拌を続けるが、鹼化熱のため、加熱はゆるめる。第二回目の乳化状態になったら、第三回目の苛性ソーダ溶液、つまり残りを全部入れ、攪拌を続ける。鹼化熱のため、液温は九〇〜一〇〇度に達する。

鹼化が終了してから、約三〇分蓋をして保温し、円熟させる。この間の所要時間は、約八〇〜一二〇分位である。

鹼化円熟が終了したら、色素香料を必要あれば加えて少し攪拌する。

(2) 固化枠へ流し込む

出来上った石鹼膠を固化枠（第一図）へ流し込み、冷却・固化させる。

(3) 冷却固化

固化枠の中で、一―二昼夜放置させ、固化させる。

(4) 切断操作

固化枠のねじを取はずし、固化した石鹼を取出し、切断枠にて、大切断し、ついで小切断する。このとき針金としては、鋼線を用いた方がよい。（第二図および第三図参照）

(5) 乾燥

二―三昼夜、通風よき室内で乾燥させる。

（本校では、二段の細長い棚で乾燥させる。）

(6) 型打操作

手廻し式型打機あるいは足踏式型打機にて一個一個型打ちをする。（石鹼は、よく乾燥しているのを用いること。）

(7) 包装

市販品を参考にして、セロファン紙にて、一個、三個、五個を包装し、製品とする。

五、試験

(1) 含有水分の測定

一定量の細かく切った石鹼を電気乾燥機に

て、六〇度位で五―六時間乾燥させ、さらに塩化カルシウムデシケータ内で一―二日乾燥させて後、秤量して水分を測定する。

(2) 遊離アルカリの試験

少量の石鹼片を無水アルコールにとかし、〇、一％フェノールフタレイン溶液は一―二滴おとして試験する。

(3) 夾雑物の試験

石鹼の一定量を取り、水溶液をつくり、濾過して不溶夾雑物を取り出す。珪酸ソーダなどは、簡単には試験できない。

六、管理

(1) 用具の洗濯および整頓

固化枠、切断枠その他の容器などを水洗する。

(2) 原価計算と販売価格の決定

原価計算に必要な比例式、歩合、百分率などを計算できる能力を充分指導し、原価計算をし販売価格を決める。

(3) 製品の販売と保管

販売はP・T・Aを通して各家庭へ。又、学校に必要な石鹼も学校協同組合を通して販売する。

保管する場所は、充分湿気の少ない所を選んでいる。

(4) 原料の購入

当市の柄石鹼工場より二―三斗位づつ原価購入している。

七、運営

本校産業教育学習工場の一環として、第三学年の職業選択コースで、そして本校生産クラブ協同組合組織により運営されている。

職業・家庭科の展望

産業教育研究連盟編

本書は、産業教育における正しい職業・家庭科の位置づけを志してきた本連盟のテーマであり、これに対して昭和二十二年度の文部省通牒以来今日に至るまでの変化を示す資料、中でもオスボン、ネルソンなどの占領当局が与えた指示など、貴重な資料、それにアメリカのインダストリアル・アーツ、ソウエトの総合技術教育なども入れて、この教科を冷静に客観的に展望するようになっていく。

この教科を理解するためには、部分的にとらえてはいけませんので、全般のうつりかわりを眺めて、それによってどの方向が正しいかを判断する必要があります。そのために、まとめられた本書は、実践家にとっても、極めて好適のものである。（価百五十円、送料十六円、立川図書発行、連盟へ申込みあれば送料負担本する）

研究大会に寄せる(続)

有田 稔

産業教育は流行ものではない。他に先んじて施設をなし先進校だと人からもてはやされまた自惚れるものもあるまい。

私の学校では産業教育という言葉が口にされない中学校創立未だ日の浅い頃から現在の施設の構想をもち、全然顧みられぬので学校内外の啓蒙に努力し、また裏づけとなるべき実績を挙げることに努力して幾多の迂余曲折を経て今日に及んだ。

私が今までに触れた先進校と称される学校は、確かに敬服に値する実績を挙げられている。然し何時までも数少ない先進校が云々される域に止まるのが、産業教育の所以ではあるまい。産業教育という、何か特殊な教育を施す学校位にしか考えていない学校が、現在なお大部分といっても過言ではない。「産業教育」という言葉はあっても無きに等しい位までの域に到達しない限り、真の産業教育とは言われないであろう。

中学校に於て産業教育の根幹となる職業家庭科のあり方は確かに大切である。しかもその教科が軌道を逸脱することは許されない。それだけに徹底した究明がなされ運営がされなければならぬと思う。昨年の研究会は「産業教育の在り方、職業家庭科の性格、その内容」にまで及んだ専ら研究が積まれた。

今回はそれらに立って研究されたという新潟県から合同研究の成果なるものが発表された。確かにその努力に対しては敬服するが、単に内容が共通傾斜の○がいくつ△がいくつで、とうのこうのといった議論の挙げくに、基礎技術とは何か、実生活に役立つ仕事と基礎技術とが何んだかという議論にはおおよそ興ざめの為体だ。まるで一カ年の歳月は空転に等しい。私はたとえ研究の余地がたくさん残されたものでもよいから、ある一つの学校での真摯な研究の実践報告に触れたかった。

この外おかれて到着したものは、やむなく割愛させて頂きました。(編集部)

連盟だより

本年度常任委員決定

東日本会場において、定期総会を開き、左の通り常任委員が選ばれた。その結果従来七名であったのが九名となった。(ABC順)

- 後藤 豊治 (国学院大学教授)
- 長谷川 淳 (東京工業大学助教授)
- 池田 種生 (教育評論家協会理事)
- 稲田 茂 (川崎市御幸中学校教諭)
- 清原 道寿 (東京工業大学助教授)
- 村田 忠三 (国学院大学助教授)
- 中村 邦男 (東京都砧中学校教諭)

杉山 一人 (東京都教育庁調査課主事)
吉田 元 (群馬大学学芸学部助教授)
なお改正された規約は別掲の通りである。その後常任委員会で互選の結果、規約による委員長に清原氏、副委員長に後藤氏、幹事に池田氏が選ばれた。

編集だより

▽本号は九・十月号合併号として、ごらんの通り八月の産業教育研究大会を中心に編集しました。参加者の方から寄せられた感想や希望は、多方面にわたって、実に尊いものでした。真摯な気持があふれています。今回の大会を反省し、今後の運営に多くの示唆が与えられています。また産業教育、職業・家庭科に対しても、よい意見が展開されています。宛も、それは研究大会の延長の観を呈しています。多彩な編集ができたことを、稿をお寄せ下された方へ、改めてお礼を申し上げます。▽もっと多くの人からも、お寄せして頂きましたので、紙面に限りがありますので、今回はこれに止めますが、どうか、こうした御意見をどしどしお寄せ下さるようお願い致します。

▽新川中学校杉浦氏の石けん製造の学習は、全国的共通とはいきませんが、化学的な一つの技術指導として、同校では以前から行っているものです。(表紙の三へつ)

産業教育研究連盟規約

(昭和二十九年八月 制定)
(昭和三十年八月 改正)

第一条(名称) 本連盟は産業教育研究連盟と称する。

第二条(目的) 本連盟は学校及び産業現場における産業教育に関する研究とその発展普及を図り、民主的にして平和的な教育に寄与することを目的とする。

第三条(事業) 本連盟は前条の目的を達するために、左の事業を行う。

- 一、産業教育に関する研究・調査
 - 二、協議会・研究会・講習会等の開催
 - 三、実験学校の指導、地方への講師派遣
 - 四、会員の研究実践の促進、連絡および助成
 - 五、機関誌・図書その他の編集および刊行
 - 六、他団体との連携協力
 - 七、その他必要な事業
- 第四条(会員) 本連盟の趣旨に賛同し、所定の会費を添えて加盟を申込みたる個人をもって会員とする。会員は機関誌の無料配布をうける。

第五条(総会) 毎年一回総会を開き、前年度の諸報告を行い、次年度の活動方針を審議する。また必要に応じて臨時総会を開くことができる。

第六条(本部) 本連盟の本部に左の部局をおく。

- 一、研究部(研究調査に関する事項)
- 二、事務局(庶務・会計・組織に関する業務)

第七条(支部) 本連盟は地方に支部をおく。

支部の設立はその地方の会員の発意によるものとし、常任委員会の承認を経るを要する。

第八条(役員) 本連盟に左の役員をおく。

- 一、常任委員 若干名
- 二、評議員 若干名
- 三、顧問 若干名

第九条(役員) 役員は選出および任期は左の通りとする。

- 一、常任委員は総会において選出し、任期を一カ年とする。但し再選を妨げない。常任委員中より委員長・副委員長・幹事長各一名を互選する。
- 二、顧問、評議員は常委員会で委嘱する。

(前ページよりつづく)

▽巻頭の後藤氏のは、今夏の西日本会場での講演で十分述べ得なかつた点を補足する意味で、執筆して頂きました。職業指導のあり方についての反省に役立てば幸いです。
▽次号からは、さらに実践的なものをとり入れていきたいと存じます。

× × ×
会員が増加すると共に、前金切の方も多くなっています。一切差別なく、会費前納の方以外には会誌をお送りしていませんので、月僅か二十円、御面倒でもすぐ御払込みの程お願いします。(係より)

第十条(役員) 役員は左の通りとする。

- 一、常任委員は常任委員会を構成し、本部の業務を遂行する。
- 二、顧問・評議員は必要に必じて本連盟の重要事項について審議する。

第十一条(経費) 本連盟の経費は、会費・事業収入・寄付金その他によってまかなう。

第十二条(規約変更) 本規約の変更は総会の承認を要する。

附 則

連盟本部を当分の間東京都渋谷区若木町国学院大学教育学研究室におく。

職業と教育 (在庫分)

○昭和二十八年十月号

- 中学校商業教育の問題 (角田一郎)
- 産業教育と各教科のあり方 (清原道寿)

○同 十一月号

- 職業・家庭科技術指導の段階 (古屋正賢)
- 電気に関する学習指導法 (福田 茂)

○同 十二月号 (家庭コース特集)

- 家庭コースの目標と性格 (アンケート)
- 家庭コース討議の鍵 (回答によせて)

○昭和二十九年一月号 (協議会特集)

- 産業教育運動への発展 (池田種生)
- 産業教育全国協議会の概況

○同 八月号 (特集倍大号)

- 1 中学校における産業教育の意義
- 2 産業教育の領域と職業・家庭科
- 3 職業・家庭科の性格づけ
- 4 教育内容選定の視点
- 5 教育内容選定の立場
- 6 教育内容選定の手続き
- 7 参考文献五十七冊紹介

○同 九月号

- 産業教育研究連盟の発足にあたって
- 職業指導の実際運営(2) (後藤豊治)

- ソヴェトの自然科学の教育(1) (杉森 勉)
- 同 十月号

- 産業教育の本質と実践の方向 (池田種生)
- 中学校におけるポリテフニズム(長谷川淳)
- ソヴェト自然科学の教育(2) (杉森 勉)

○同 十一月号

- 産業教育と国語教育(国分一太郎)
- ソヴェトの自然科学(3) (杉森 勉)

○同 十二月号

- 第二次建議を中心の特集号
- 転換する職業・家庭科(座談会)

- (宮原誠一・厚沢留次郎・鈴木寿雄その他)

○昭和三十年一月号

- 数学教育における問題点(遠山 啓)
- 歴史的使命は終わったはず(林 勇)
- 産業教育への私の発言 (アンケート)

○同 二月号

- 第一次建議の説明(長谷川淳)
- 第二次建議の説明(鈴木寿雄)
- 全国指導主事会議質疑応答

○同 三月号

- 工業技術教育の歴史的構造 (山崎昌甫)
- リンゴの学習指導(海外資料)

○同 四月号 (品切れ)

- 生徒の家庭労働と産業教育(浜松信之)

- 理科教育の問題点(田中 実)
- 基礎学力の調査(杉山一人)

○同 五月号

- 女教師の実態(西尾幸子)
- アメリカの家庭科教育資料
- 養魚場の見学(海外資料)(杉森 勉)

○同 六月号 (特集)

- 機械及び工作室における管理運営の研究 (群馬県坂上中学校)
- ここに実践の本姿を見出す(鈴木寿雄)

○同 七月号

- 混同されやすい類似概念(清原道寿)
- 第二群の学習指導 (杉田正雄)
- 第一群関係について(中村邦男)
- 第三群への私見 (池田種生)

各冊二十円(送料三冊まで四円)必ず号名
明記、前金申込のこと。切手代用でも可

昭和30年10月1日印刷
昭和30年10月5日発行 (定価二〇円)

編集兼 池田種生
発行者 池田種生
発行所 産業教育研究連盟

東京都中央区銀座東五ノ五
振替東京七七一七六番
電話銀座(54)二九七四